

平成 28 年 6 月 18 日

奈良保育学院  
学院長 多中 祥元 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 大原 敏敬

## 学校関係者評価委員会報告

平成 26 年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した平成 27 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 西山 明彦（奈良市私立幼稚園協会会長、いさがわ幼稚園園長）
- ② 松村 善子（極楽坊保育園園長）
- ③ 大原 敏敬（奈良県私学専修学校連合会副会長、大原和服専門学園理事長）
- ④ 森田 良江（奈良保育学院三友会会長）
- ⑤ 米田 久美子（香芝市子ども支援課職員、奈良保育学院第 19 期卒業生）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 27 年 6 月 20 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）  
第 2 回委員会 平成 27 年 11 月 21 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）  
第 3 回委員会 平成 28 年 2 月 9 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

## I 重点目標について

## 1 重点目標①について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適時の学生への関わり、専任全教員の情報共有、様々な教育活動等を通して学生の就職に関する意識の向上を図り、幼稚園教員免許及び保育士資格取得率 100%と関係分野への就職率 100%を目指す。</li> <li>・ 日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 90%以上を目指し、コミュニケーション力及び対人関係力の向上を図る。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職後について、近年の社会状況として、周囲の理解や支援がないと離職してしまう傾向がある。継続して勤務できるように可能なフォローは実施するが課題も多いのが園の現状である。</li> <li>・ 地域によっては園児数の減少と教員不足が生じている。一般的に、近年の学生は働きやすさよりも立地条件等で就職先を決定しがち。技術的に高い評価を得ても、教育・福祉の現場では人間性が大切である。就職率維持のために、学校教育の中では人間性を育ててもらいたいというのが現場の思いである。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職指導にあたっては、本人の希望を主としながら、学生の性格や特徴に合わせた就職先を検討するよう指導している。近年の社会情勢や動向を鑑み、本学卒業生も短期間で離職とならないように、今後も在学中から卒業後を含めて継続して支援していきたい。</li> </ul>

## 2 重点目標②について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内教員で構成される三つの委員会（教育課程検討委員会、就職検討委員会、実習検討委員会）を開き、学生指導、就職及び実習指導等、校務全般の実践力を向上させる。</li> <li>・ 主に学外関係者で構成される二つの委員会（学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会）を開き、客観的視点で学校全容を評価することにより、学校運営の向上を図る。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種委員会の設置は良い取組みである。委員会で提示された意見や協議内容については、学内で完結するのではなく、ぜひ情報提供して欲しい。</li> <li>・ たとえば実習検討委員会による協議結果を踏まえた園への要望や対応の在り方などを実習園へ伝えることで、実習園も内容を検討することができる。実習園も次世代を育てる役目を担っているため、養成校と意見を交わしてお互いに情報提供することで連携し、より良い実習へとつなげていきたい。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検討委員会で提示された意見や協議内容については、積極的に学外へ発信すべく尽力する。たとえば実習検討委員会では、実習前に教員が実習先を訪問する際、実習内容依頼・学生の申し送り・その他要望を伝えていく。</li> </ul>

## Ⅱ 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標として、理念・目的・育成人材等は明確にしており、ホームページ上での公開及び各高校でのガイダンスや本学院のオープンキャンパス等を通して、生徒及び保護者に対する説明を実施している。</li> <li>・ 少人数教育、近隣の幼稚園・保育所等関係機関と連携を密にした実習指導により教育目標達成に向けた取組みを実施するとともに、自治会行事や発表会での演目や制作発表等、学生が常に目標を持てるような取組みを行っている。</li> <li>・ 卒業資格、免許資格取得率、関係職就職希望者の就職率、ピアヘルパー資格取得率について、年度初めの学園会議にて中期的構想が示されている。いずれも 100%達成のため学生・教員ともに意識の向上を図ることが課題である。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピアヘルパー資格はいつ頃取得可能か、また、資格取得にあたってプラスアルファの科目の履修などが必要なのか。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピアヘルパー資格試験の受験にあたっては、ピアヘルパー教育内容を扱う科目（本学では「カウンセリング概論」）の履修が必要。2 回生後期開講科目であり、履修後に 2 月実施の資格試験を受験、卒業式時に資格取得有無を発表する。</li> </ul>

### 2 学校運営

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校運営方針は明確に定められており、教職員に明示されるとともに、諸規定の整備・改訂は適宜実施されている。また、学園創設 120 周年を機に策定された中期事業計画（「120 周年ビジョン」）の関連事業計画を定めている。</li> <li>・ 運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌に基づき機能している。しかし、少子化や大学・短大志向の強まりによる影響を踏まえると、学校運営に関する対策と対応は喫緊の課題であり、理事会・評議員会・各種会議では実効性のある徹底した議論が必要である。</li> <li>・ 設置基準等の定めるところにより教員の必要人員を配置している。賃金等処遇については、平成 26 年度から「目標管理制度」を実施し、人事考課を行っている。人事考課の結果は翌年度の賞与支給に反映させ、将来的には昇給にも反映させていく予定である。</li> <li>・ 平成 28 年度に学校管理システムの大幅な変更・更新作業を実施する予定である。入試管理システムの構築も視野に、適切かつ効率よく学生・教職員のデータを管理できるようなシステムの導入について検討する。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立幼稚園の民営化やこども園への移行など、幼稚園業界は変化しつつある。伝統ある学校法人としての対応を検討してもらいたい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状では施設の拡張等は難しいが、民営化に伴う法人内での統括などについては一つの機会として検討していきたい。</li> </ul>

### 3 教育活動

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標・育成人材像は十分な内容で定められている。また、カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき、目標達成に向けて体系的に編成されている。成績評価・単位認定の基準は明確であり、学則及びシラバスに記載されている。目標とする資格はカリキュラム上で明確に定めており、資格取得をサポートできる教育内容及び指導を実施している。</li> <li>・ 学生による授業評価アンケートを実施し、授業の改善を図っている。結果の詳細分析には至っておらず、客観的な視点による分析も考慮すると、外部業者による実施の検討も視野に入れる必要がある。</li> <li>・ 教員の専門性レベルは監督官庁の資格審査に合格している。専門性向上のため、学会・研究発表、研究紀要の執筆等を奨励している。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語力の育成について、携帯電話等の電子機器を便利に使える時代でもあり、書く経験が少なくなってきたと思われるが、学院の指導はいかがか。たとえば実習記録の誤字脱字に関しても、意味がわからずに難解な漢字を使用しているために間違えるのだろう。意味を理解した上で使用して欲しい。</li> <li>・ 近年の保育現場では早期離職が課題となっており、相談できる場が身近にあることや個々に寄り添った指導は必要だろう。</li> <li>・ 在学中の学習と卒業後の仕事のつながりがわからずイメージが明確ではない場合、習得した技術がどう活かされるのかを理解しにくい。その解消として、卒業生との交流や、学校と園や施設職員による話し合いの場も有効である。身近なモデルを知ることによって学習へのモチベーションにもつながる。授業を通してリアリティ・ギャップを埋める取組みを実施してはいかがか。</li> <li>・ 付属幼稚園や体験実習ができる保育所など、近くに実践の場があるというのはとても良い環境だと思う。理論を学び、基礎を積み上げて実践力を身につけることが大切。保育士不足に伴い、現場では即戦力が求められる。いかに次世代を育てていくかが課題。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業内容をまとめたノートを作成や提出を義務付けている教員も多く、将来に向けて書く力の訓練には力を入れている。今後も国語担当教員と連携しながら実施していきたい。</li> <li>・ 「課題研究」の授業では、卒業後1年目及び数年後の卒業生を招いて、就職ガイダンスを実施している。内容については今後も検討していきたい。また、実習前には園及び施設懇談会を実施し、学生の情報を共有している。早期離職防止策のひとつとして、卒業生や就職先園との積極的な交流を継続し、深めていきたい。</li> <li>・ 学外実習に臨む前に、授業内で付属幼稚園や近隣の保育所における体験実習を実施することで現場の様子を把握し、イメージを明確にする取組みを継続していく。</li> <li>・ 演習・実習科目を重視したカリキュラム編成や実践力養成のための講習会の開催など、今後も専門学校ならではの実践力養成のための教育課程を編成し、より良い学びが得られるように実施していく。</li> </ul>

#### 4 学修成果

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職率の向上、保育士資格及び幼稚園教諭免許状の取得率向上に努めており、それらの成果及び推移に関する情報を明確に把握している。平成 26 年度は、卒業資格取得率 100%、保育士資格取得率 100%、幼稚園教諭免許状取得率 97%、関係職への就職希望者の就職率 100%、日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 71%であった。</li> <li>・ クラス担任制をとり、個々の学生の相談に応じて学生の把握に努めるとともに、退学率低減につなげている。各授業での様子や欠席数については教員間で共有し、随時連絡をとる体制を整えている。</li> <li>・ 進路担当者を中心として前年度卒業者の就職先を訪問し、卒業生の社会的活躍の把握や離職率の防止に努めている。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年の保育現場における離職理由として、人間関係がきっかけであることが多い。コミュニケーション不足か人間関係構築の困難さか、現場において考えられる課題も多い。学校教育を通して人間性を育ててもらいたい。</li> <li>・ 人材確保と働き方については今後の課題となってくる。学生と企業をつなぐ専門職養成校として、専修学校の在り方が問われてくるのではないか。</li> <li>・ 近年、コミュニケーション能力が不足している実習生や新卒者も多い。学校生活の中で、学生がお互いに目標に向かって活動し、意見を交換し合う活動を促進することは必要だと考えられるが、学院の現状はいかがか。</li> <li>・ 固定化された関係性の中でのコミュニケーションだけではなく、変化する環境下における人間関係の構築が大切になる。協力して取組むことは様々な葛藤もあり大変なことだからこそ貴重な経験。成し遂げ感動を得るという経験を積極的にして欲しい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早期離職防止の取組みのひとつとして、教員による卒業生の就職先訪問を実施しており、今年度も全教員が分担してすべての就職先を訪問した。卒業後に来校する卒業生も多くいるが、やはり人間関係上での不安や不満は耳にする。心理学関連科目ではコミュニケーションについて重点的に扱っており、今後も、人間関係やコミュニケーションの在り方について学びを深められるよう努めていく。</li> <li>・ 大阪や京都では保育士協会が中心となり、養成校と園・施設との協議会を年 2 回程度実施しているが、奈良では実施されていない。懇談会等を通じて積極的に就職先園・施設との交流と情報交換を実施していきたい。</li> <li>・ 毎年 12 月に実施している表現活動発表会では、全学生が保育内容・音楽・図画工作・身体表現による作品を、それぞれ舞台や展示で発表する。学年全体及び小グループに分かれて創作するが、良い作品を創り上げるためにはお互いが積極的にコミュニケーションを取る必要がある。今後も継続して取組んでいきたい。</li> </ul>

## 5 学生支援

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス担任制により密に関わることで、日常での授業、就職、生活に関する様々な事項について、個別に対応している。</li> <li>・ 保護者との連携については、年 2 回発行の学園だよりや保護者団体の会報等を通して活動状況を報告している。学生生活で注意を要する学生の保護者には連絡をとり、必要に応じて面談を実施している。</li> <li>・ 奨学金制度は日本学生支援機構を利用し、平成 26 年度入学者は 13%が貸与中である。</li> <li>・ 卒業生支援として、就職先訪問の他、同窓会組織による定期的な総会や会合を開催している。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職面接においては人柄を見ることはよく言われるが、学院のマンツーマン指導は功を奏しているのではないかと。</li> <li>・ 在学生に限らず卒業生にとっても教員の存在は大きい。卒業後も就職支援などを丁寧に行っている現状は保護者からするとありがたく、学校での細かな配慮が学生にも伝わり、卒業後も来校する学生が多いのだろうと思う。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職後は、短大・四大卒業者と同じく勤務しており、次もお願いしたいといわれることも多い。学生に対しては、個別指導の時間を設ける他、休み時間や放課後を使って、全教員が関わっている。多様な視点を持って様々な側面から一人の学生を見ることができているのが、本学の強みだと考えている。学生ひとりひとりを見つめた関わりを今後も実施していく。</li> </ul>

## 6 教育環境

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設および設備のメンテナンス体制、セキュリティ管理には万全を期している。施設の改善は、学生数の動向と学園の財政状況を踏まえ検討していく。</li> <li>・ 学外実習に関しては、外部の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、実習評価表や実習指導記録をもとに個別面談を実施している。</li> <li>・ インターンシップや海外研修は、カリキュラム上参加が難しく積極的な情報発信はしていないが、希望者には情報提供できるようにする方針である。</li> <li>・ 消防防災訓練実施マニュアルは作成しており、学園防災避難訓練を毎年実施している。危険物等の管理や学外実習時の事故防止は周知徹底している。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉関連施設への就職もあるとのことだが、学外実習で発達障害のある子どもたちと触れ合う経験はあるのか、もしくは経験のないまま実習や就職をすることによる戸惑いはないのか。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 26 年度は実習に向けた指導の一環として、特別支援教育に関する講習会を実施した。特別支援員として現場で活躍している講師を招き、具体的な事例を通して両回生ともに学んだ。実際の子どもたちと触れ合う経験は実習時となることも多く、初めて関わる上での難しさはあるが、事前の学びを通して実践へとつなげていきたい。</li> </ul>

## 7 学生募集と受入れ

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生募集活動は適正に行われており、当該年度の入学者、卒業者、就職希望者数、就職者数は指導監督庁に報告している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮した内容となっており、問い合わせや相談への対応は、専任教員全員が可能となるような体制を整えている。</li> <li>・ 入学選考は公平性を保つために全教員が関わり、筆記試験及び面接の結果を踏まえて協議により判定している。入学選考に関する情報と推移は正確に把握しており、少子化や大学・短大志向の影響も考慮し、高校訪問のあり方や企業主催の進路相談会等への参加については今後も検討していく。</li> <li>・ 学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて低額であり、学生・保護者の大きな負担感はないものと推察される。</li> </ul>
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人経験者の受入れについて、差別化などはしているのか。また、就職の困難さは見受けられるのか。</li> <li>・ 新卒であっても社会人経験者がいるということについては、園としても理解しておきたいと考えている。職員の年齢バランスも含めて考慮したい。</li> <li>・ 就職先園としては、社会人を経験してから再度学びたいという意欲を持った学生はありがたく、今後も積極的に受け入れて欲しい。即戦力としては、社会人経験者を受け入れていきたいと考えている。</li> <li>・ 保育時間の延長に伴い、非正規雇用者の需要は拡大している。そのため、資格・免許を取得している再就職者は需要が高く、就職の幅や活躍の場は広がっている。</li> <li>・ 親支援を考慮すると、子育て経験者の力は大きく、多様な年齢幅が揃っていることは園としては理想である。子育て経験者が現場に戻れるような職場環境を整えていきたい。</li> </ul>
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人経験者の入学生は年度によって増減がある。保育・教育者を志す者としては等しく初学者であるため、現役生も社会人経験者も区別せずに指導を実施している。</li> <li>・ 社会人経験者の内、特に年配者に対しては、入学試験時の面接や入学後の進路指導等の個別面談の際に、現役生と比較して正規職員としての就職は厳しいかもしれないことは伝えている。しかし、様々な形態による就職の幅が広がっているという実態を踏まえ、個々の属性や特性を活かした就職先につながるよう支援していきたい。</li> </ul>

## 8 財務

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務基盤は中長期的に必ずしも安定していると言えない。学園全体の財政基盤を確立すべく、学生・生徒・園児の必要定数を確保していく必要がある。</li> <li>・ 年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行している。会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われていると認識しており、財務状況の公開については、私立学校法の規定に基づき適切に行っている。</li> </ul>
-----------	---

委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私学における補助金の在り方について伺いたい。</li> <li>・ 学校運営を考慮すると、きちんとした財政措置をしなければ継続できない。行政における変化に応じて財政基盤を整える必要があるだろう。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助金に関しては、県と私学との方針のすり合わせが必要だろう。今後は事業内容に応じて補助金が給付されることになり、私学における補助金の状況は厳しくなっている。使途については検討の余地がある。</li> </ul>

## 9 法令等の遵守

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令や設置基準は遵守しているが、施設設備で充分でないものもあるため、今後の課題である。</li> <li>・ 学校が保有する個人情報に関する保護対策は徹底するとともに、委員会を組織して啓発活動を実施している。近年、SNS への書き込みなどメディア機器を通じた情報流出が問題視されていることも踏まえ、特に学外で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を学生・教員ともに徹底させていく。</li> <li>・ 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。結果の公開に関する方針は確立されておらず、必要に応じて開示している。早急に方針等を確立し、公開していく。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員においても連絡事項を筆記せず写真に残す傾向があるが、実習先等で掲示や連絡事項を写真に撮るなどしてトラブルに至った事象はあるか。また、どのような指導を実施しているのか。</li> <li>・ 連携協定の誓約書等で守秘義務に関する事項を交わすなど、書式化していくと良いのではないか。</li> <li>・ 実習・就職先としては、たとえば友人同士のやり取りのように安易に情報を発信する傾向に危機感を募らせている。仕事とプライベートの線引きをして欲しいと考える。たとえば実習中に友人同士で悩みを話し合うなどのコミュニケーションは大切であり積極的に意見を交換し合うべきと考えるが、守秘義務や個人情報の保護の大切さを指導して欲しい。実習事前事後指導を適切に実施し、人が介する職業であることを強く認識してもらいたい。</li> <li>・ インターネットが身近になり、たとえば園での行事における個人写真を個人の SNS サイトに掲載することの是非など、線引きが難しい。メディアが発達して便利になることに伴い、節度を持って活用することが大切だろう。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内でも、掲示されている連絡事項を写真に収める学生の姿は見受けられるが、筆記によるメモを取ることや、ノート作成・提出など、書くことの指導を徹底している。今後も国語力の育成には努めていきたい。</li> <li>・ 学外実習により外部機関や他者の情報に触れることが多いため、知り得た情報についての守秘義務は、各期のオリエンテーション時及び学外実習の事前・事後指導時に、指導を徹底している。また、平成 27 年度学生便覧に、「実習中の心得」欄の守秘義務についてより詳細に追記し説明するなど、指導を強化している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に SNS を利用した情報漏えいについては、実習前に指導を徹底している。しかし、学生にとって SNS 利用は日常的なコミュニケーション手段のひとつであるため、「書くな」という指導だけでは改善は見込まれない。実習中に限らず、日常におけるメディアの扱い方について指導を継続させるとともに、学生自身に考えさせる取組みを実施していく。</li> </ul>
--	--

## 10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会および地域貢献活動の一環として、平成 26 年度より、幼稚園教諭免許状取得者を対象とした保育士資格取得制度（特例教科目制度）を開講している。また、奈良教育大学と連携して、幼稚園免許更新講習会を実施している。いずれも定数を確保しており、平成 27 年度も引き続き実施していく。</li> <li>・ 学園全体として環境問題に対する啓蒙活動を行っており、学園周りの花壇の整備や空調の温度制限等を実施している。</li> <li>・ ボランティア活動に関しては積極的な参加を呼びかけており、地域の行事や実習先等からの要請等に応じて、個人または授業を通して参加している。</li> </ul>
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特例教科目制度受講者に関して、現場でどう育てていけるかが課題だろう。保育士不足を補うには、実践経験者はありがたく運営も成り立つ。</li> <li>・ 学園周辺の花壇は周辺住民への貢献でもあり、活動を継続して欲しい。活動を通して、花の名前や土の作り方を知る、虫に慣れるなど、付随して得ることも多い。地域活動も積極的に行うことで、現場に慣れて欲しい。</li> <li>・ 近年、現場で子どもたちに教える立場である教職員の器が小さくなっているように思う。たとえば校外学習の機会は大切であり、現代は家庭における経験が減少していることもあるため、まずは経験すること、そして経験することによる発見を得ることが大切だろう。ぜひ継続して取組んで欲しい。</li> <li>・ 園における季節ごとの行事の内容などを子どもの様子とともに保護者へ伝えることも親支援のひとつである。地域へ向けて発信することも大切な取組みだろう。</li> </ul>
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特例教科目には通学制・夏季集中制・通信制の 3 つの受講形態がある。通信制はレポートによる単位認定となるが、「乳児保育」科目は 2 日間のスクーリングがあり必要最低限の体験実習を実施している。受講生は働きたい意欲が強く現場経験もあるため、担当教員の勉強にもなる。きちんとした人材を輩出できるよう、養成校として今後も努めていきたい。</li> <li>・ 現在、年に 2 回発行している学園だより「しらふじ」や保護者向けの会報「三友会だより」、学校公式 web サイトなどを通じて、学校としての取組みや授業風景、学生の様子などを報告している。学内にとどまらず、学外へ向けた発信を今後も継続的に実施していく。</li> </ul>